

取水堰工事を完了

ジャララバードに断続的降雨、送水試験を1月28日に延期

ジャララバードは今週になって断続的な雨が続いています。みな大喜びで、1月に入って小麦の種まきを大急ぎでした農家も少なくないそうです。(収穫量は落ちますが、可能だそうです)。

最大の難物であった堰の工事は、本日終了しました。降雨と共に増水が始まり、危機一髪でした。また、雨でコンクリート工事が大幅に遅れ、送水試験を1月28日に延期しました。「仮工事」としたのは、堰が一年で出来ることがないため、ふつう洪水期を経て観察、改修を行ってから「竣工」を伝えるからです。このところ灌漑ルートの新調査を進めています。今回の灌漑は、護岸（洪水対策）と密接に関係していて、かなり神経を尖らせております。

10月から4か月の奮闘のおかげで、十分な見通しが出てきています。いきなり突貫工事のような態勢でしたが、短期の工事期間の割に、その恩恵は大きいものがありました。3カ村の既存耕地全ての安定灌漑を保障すると共に、カチャラ村の耕作地回復を確実なものにしました。わずか80ヘクタールの田畑にしがみついていた寒村は、間もなく2百数十ヘクタールの耕地を得ることになります。これに合わせるかのように、村々に続々とパキスタンからの帰還難民が戻っています。あちこちで家の拡張、改築があり、男たちが荒れた耕作地に集まる光景が目立つようになってきました（土地の区画を確認しあっているようです）。

2017年1月25日 記

恵みの雨です。時おり雲間から、ちらりちらりと白い峰が顔をのぞかせます。

スピંગガル山脈、ダラエヌール共に著しい降雪です。ただ、工事には泣きの涙で、遅れを取り戻すのに必死です。2017年1月25日

スピંગガル山脈

C岩盤

A岩盤



堰の最終仕上げは砂利を除き、流れを確認する。砂吐き床面から 1.5mの高さに越流線を揃えてある。石積みの固定堰工事を始めて約 2 か月半、最終的に巨礫掩蔽面積は約 9250 m²、使用した巨礫はダンプカーで約 3,500 台分、短期間の工事としては空前の量となったが、大部分が水中にあって見えない。2017 年 1 月 23 日



洪水吐きを対岸から見る。2017年1月23日



カチャラ分水路 I。2017 年 1 月 25 日



沈砂池上流部の完成。橋Ⅱ（870m地点）も完成。2017年1月25日



沈砂池Ⅰ

用水路 1000m地点から間もなく注ぐ予定の、カチャラ分水路Ⅱ流域耕地。一部は汲み上げポンプで細々と潤されていた。土地の荒廃は、やはり2010年の大洪水で、村民の半数以上がパキスタン側に退避していた。2017年1月25日



カチャラ分水路Ⅱ（既存）